

西表島の植物誌

街角の植物 参考資料



林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター

はじめに

西表島は日本最大規模のマングローブ林をはじめとする亜熱帯の原生林とわが国最大のサンゴ礁「石西礁瑚」に囲まれ、固有種であるイリオモテヤマネコをはじめとする希少な野生動植物が生息・生育する豊かな自然環境に恵まれています。

この西表島に国有林野を活用し自然再生活動に取り組むNPO団体や環境教育に携わる教育関係者等への支援活動の強化等を図るため、西表森林環境保全ふれあいセンターが平成16年4月に設置されました。

同センターでは、これまで西表島の小・中学校の学校行事である西表島横断、古見岳やテドウ山の登山、登山前の事前学習会等の支援を行ってきました。また、森林環境教育の教材として、「西表島での自然環境教育カリキュラム」、「西表島の名木集」等を作成し、西表島の小・中学校に配布し、活用いただいております。

今回、森林環境教育の教材として「西表島の植物誌」を作成することができました。これは、西表島は固有種が多く、全国的な植物図鑑ではなかなか植物名が特定できないこともあり、西表島での森林環境教育を推進する上において、是非とも必要な教材でした。

本書は、西表島でのフィールドを活用した自然再生活動に取り組む教育関係者、行政機関、各種団体、西表島の自然環境に関心のある方々の一助になれば幸いです。今後ともご意見、情報等を頂きながら、さらに補完・充実させていきたいと考えております。

最後になりますが、本書の発刊までに多くの皆様方にご指導ご協力を戴き、かつ具体的なお意見等を賜りましたことに対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

九州森林管理局長 沖 修司

目次

木本類^{もくほんるい}..... P 1 — P 99

草本類^{そうほんるい}..... P 101 — P 122

シダ植物^{しやくぶつ}..... P 123 — P 128

街角の植物^{まちかど しやくぶつ}..... P 129 — P 138

参考資料^{さんこうしりょう}

西表島の概要^{いりおもてしま がいよう}..... 参考資料^{さんこうしりょう} 1 — 参考資料^{さんこうしりょう} 3

この本の使い方^{ほん つか かた}..... 参考資料^{さんこうしりょう} 4

用語の解説^{ようご かいせつ}..... 参考資料^{さんこうしりょう} 5 — 参考資料^{さんこうしりょう} 11

検索^{けんさく}..... 参考資料^{さんこうしりょう} 12 — 参考資料^{さんこうしりょう} 16

まちかど しょくぶつ
街角の植物

アカキナノキ(アカネ科^か)



アサヒカズラ(タデ科^か)

(別名: ニトベカズラ^{べつめい})



アセローラ(キントラノオ科^か)



アレカヤシ(ヤシ科^か)

(別名: コガネタケヤシ^{べつめい})



インドソケイ(キョウチクトウ科^か)



ウナズキヒメフヨウ(アオイ科^か)

(別名: タイワンヒメフヨウ^{べつめい})



オオギバショウ(バショウ科)
(別名:タビビトノキ)



オオゴチョウ(マメ科)



オオバナアリアケカズラ
(キョウチクトウ科)(別名:アラマンダ)



オオバナサルスベリ(ミソハギ科)



オオベニゴウガン(マメ科)



カエンボク(ノウゼンカズラ科)
(別名:アメリカンチューリップ)



カンヒザクラ(バラ科)
(別名:ヒガンザクラ)



キバタイワンレンギョウ(クマツヅラ科)



キバナキョウチクトウ
(キョウチクトウ科)(別名:キバナセベティア)



キョウチクトウ(キョウチクトウ科)



キワタノキ(パンヤ科)
(別名:インドキワタ)



キントラノオ(キントラノオ科)



クササンダンカ(アカネ科)



クロトン(トウダイグサ科)
(へんようぼく
変葉木)



ゲッキツ(ミカン科)



コバナアリアケカズラ
(キョウチクトウ科)



コバナアリアケカズラ
(キョウチクトウ科)



コバノセンナ(マメ科)



サンダンカ(アカネ科)



サンダンカ

えんげいひんしゅ
(園芸品種スーパーキング)



ストレリチア(バショウ科)

べつめい
(別名:ゴクラクチョウカ)



ターネラ ウルミフォリア(ターネラ科)

べつめい
(別名:イエロークイーン)



タコノキ(タコノキ科)



チョウマメ(マメ科)



ツンベルギア・フォーゲリアナ
(キツネノマゴ科)



デイゴ(マメ科)



トックリキワタ(パンヤ科)



トックリヤシ(ヤシ科)



トックリヤシモドキ(ヤシ科)



ナンヨウスギ(ナンヨウスギ科)



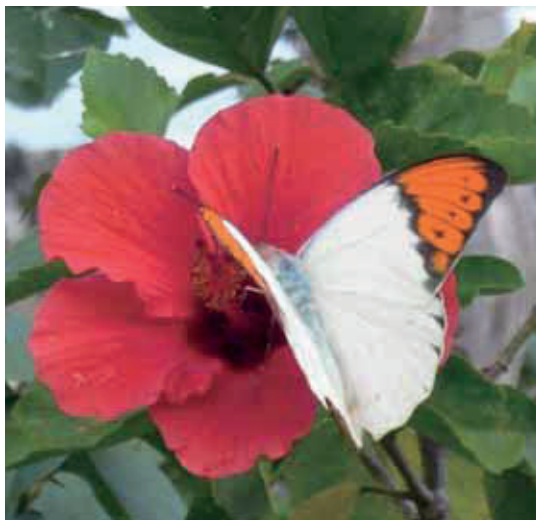
パイナップル(パイナップル科)



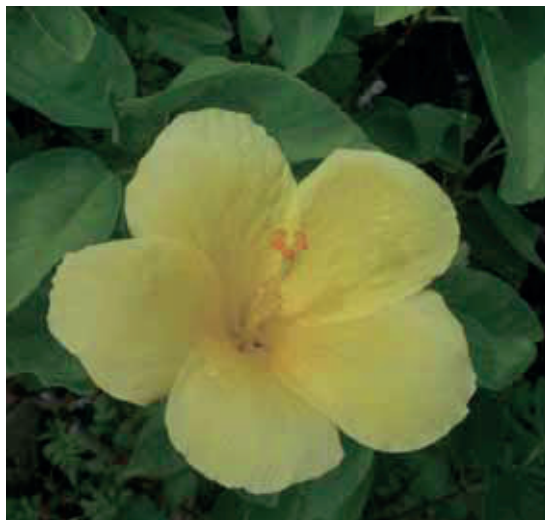
ハイビスカス(アオイ科)



ハイビスカス(アオイ科)



ハイビスカス(アオイ科)



パキラ(パンヤ科)



ハナチョウジ(ゴマノハグサ科)



バナナ(バショウ科)



ハネセンナ(マメ科)
(別名:キャンドル・スティック)



パパイヤ(パパイヤ科)
(雄株)



パパイヤ(パパイヤ科)
(雌株)



バンジロウ(フトモモ科)
(別名:ガアバ)



バンレイシ(バンレイシ科)

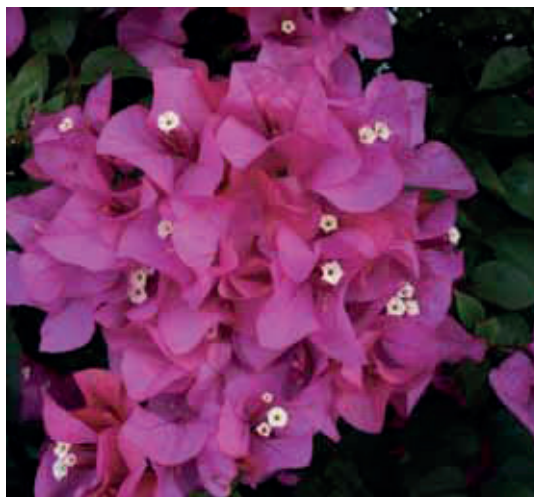


ピンクテコマ(ノウゼンカズラ科)

(別名:モモイロノウゼン)



ブーゲンビレア(オシロイバナ科)



ベンガルヤハズカズラ

(キツネノマゴ科)



ハウオウボク(マメ科)



ホコバテイキンザクラ

(トウダイグサ科)



ホテイアオイ(ミズアオイ科)



ホンコンカポック(ウコギ科)



マニラヤシ(ヤシ科)



マンゴウ(ウルシ科)



ヨウテイボク(マメ科)
(別名:オオバナソシンカ)



ランタナ(クマツヅラ科)
(別名:シチヘンゲ)



リュウキュウアセビ(ツツジ科)



さんこうしりょう
参考資料

1 西表島の位置、地形

西表島は、沖縄本島から約400km離れた八重山列島の中にあり、年間の平均気温は約24℃、年間の降水量は約2,200mmとなっており、亜熱帯海洋性気候の島となっています。

西表島の中央部は古見岳(470m)、テドウ山(442m)、御座岳(421m)など標高400m級の山々が緩やかな尾根を連ねる山岳地帯で、海岸に向かって階段状の地形をしています。



こみだけさんちようふきん
古見岳山頂付近



こみだけさんちよう
古見岳山頂より



はてるま もりほうめん
波照間の森方面



おおとみほうしゆうてん
大富歩道終点より

河川は、山岳地帯を水源に浦内川、仲間川及び仲良川などがあり、蛇行しながら流れ、上流域は谷が深く切れ込み起伏の多い複雑な地形となっていますが、河口付近は河幅も広く平坦で流量も豊富です。特に、南部は山岳地帯から急激に海に落ち込んだ断崖地形となっています。



なかまがわじようりゆう
仲間川上流



なんぶさんがくちたい (かぬかわん)
南部山岳地帯 (鹿川湾)

2 西表島の植物

西表島に生育する植物は165科、1199種類(シダ植物23科185種類、種子植物142科1014種類:琉球列島植物目録より)あります。

西表島は、南西諸島の中でも島の大きさのわりに種の多様性が著しく高い島として注目されています。

また、西表島を北限としている種としては17種が確認されており、南西諸島の植物全体を考える上で、植物地理学的に同島の植物相は重要な位置にあると考えられています。

3 西表島の森林

西表島の森林は、熱帯林と亜熱帯林に大別されますが、海洋の影響が大きいこと、地形の複雑な山地が多いことなどのため、これらの境目ははっきりと分けられないところが多くなっています。

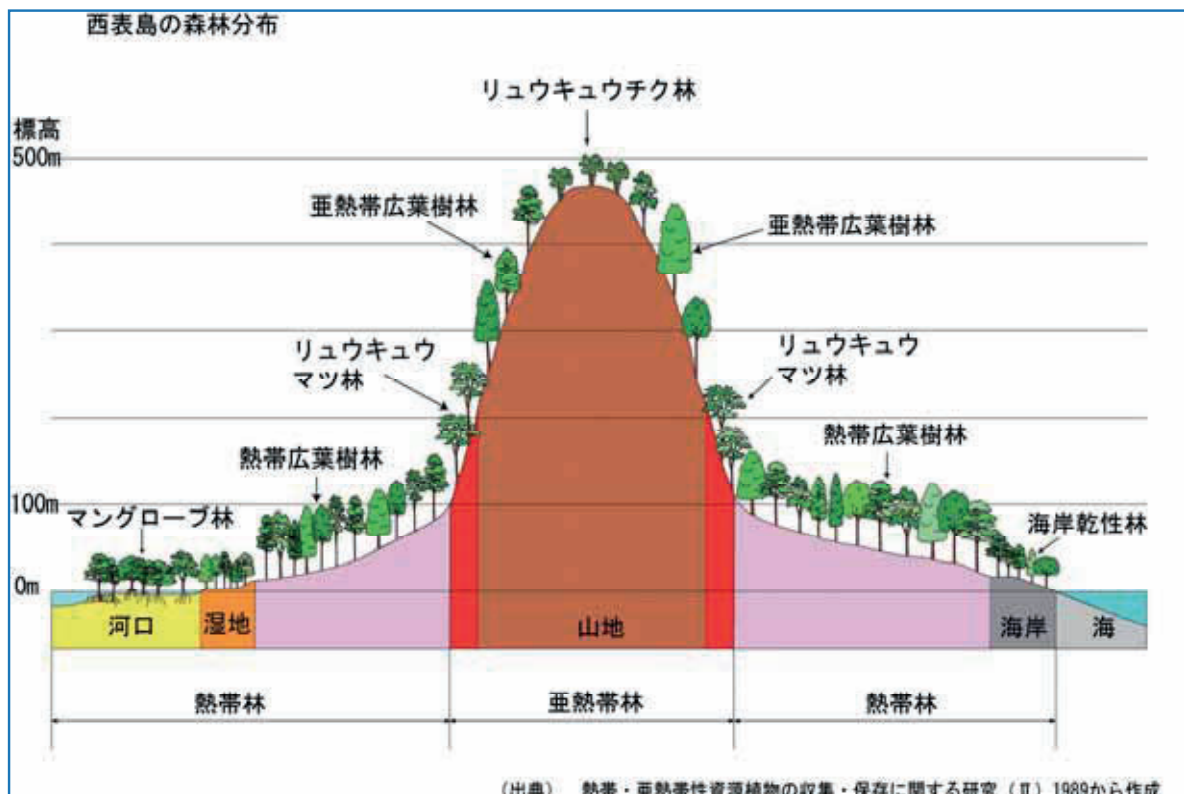
(1) 亜熱帯林

ア 亜熱帯広葉樹林

亜熱帯広葉樹林は、おおむね100m以上の山地に生育する常緑広葉樹林で、島の面積の約70%を占めています。熱帯林よりも大径材が多いという特徴があります。この亜熱帯広葉樹林の代表的な高木樹種はイタジイ、オキナワウラジロガシ、タブノキ及びイスノキの4種です。


イ リュウキュウマツ林


亜熱帯広葉樹林とそれよりも標高が低い熱帯林との間に、リュウキュウマツの天然林がみられます。



この本の使い方

- 1 科名、和名、学名などについては、主に日本野生植物図鑑を参考としました。
- 2 方言名は、「西表島の中小河川における植生実態調査報告書」九州森林管理局(平成20年3月)および図鑑「琉球列島有用樹木誌」天野鉄夫 著に記載してある中から、西表島、石垣島で使われている方言を主に使用しました。
- 3 植物の写真は西表島で撮影したものを主に使用しましたが、画像の都合で一部、石垣島で撮影したものが含まれます。
- 4 標題の色を、下記の区分として生育場所をわかりやすいようにしました。

マングローブ林・海岸植物・湿地植物・・・水色 

低地・平地に主に生える植物……………黄色 

山地に主に生える植物……………緑色 

- 5 参考文献(書籍名、著者、発行所)

・日本の野生植物(木本 I ~ II) 佐竹義輔他 著 平凡社

・日本の野生植物(シダ) 岩槻邦男 著 平凡社

・沖縄植物野外活用図鑑1~10巻 池原直樹 著 新星図書出版

・図鑑 琉球列島有用樹木誌 天野鉄夫 著 沖縄出版

・琉球弧・野山の花 from AMAMI 片野田逸朗 著 南方新社

・西表島フィールド図鑑 横塚真巳人 著 実業之日本社

・おきなわフィールドブック沖縄の野山を楽しむ植物の本 屋比久壮実 著 アクアコーラル企画

・花ごよみ 亜熱帯沖縄の花 屋比久壮実 著 アクアコーラル企画

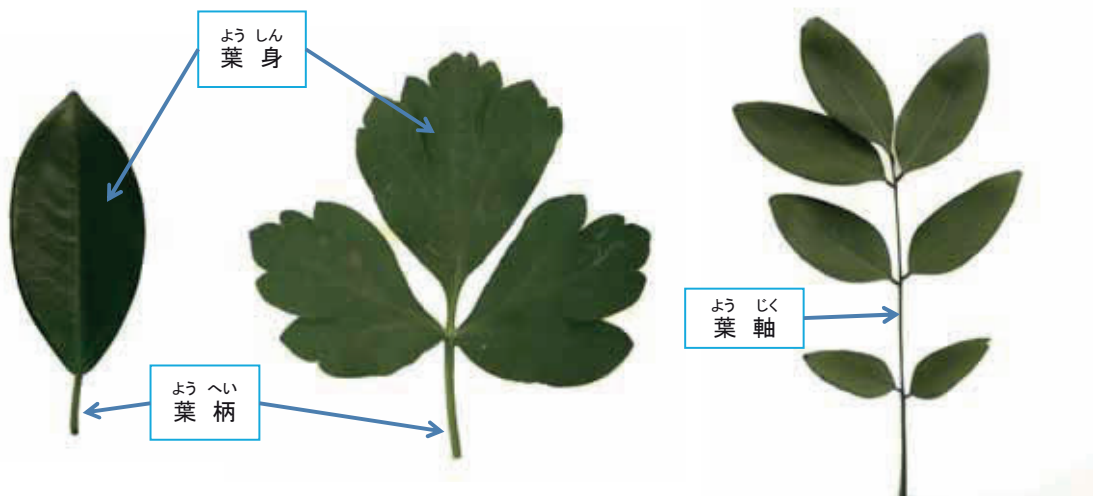
・学生版 牧野日本植物図鑑 牧野富太郎 著 北隆館

・検索入門 樹木① 尼川大録 長田武正 共著 保育社

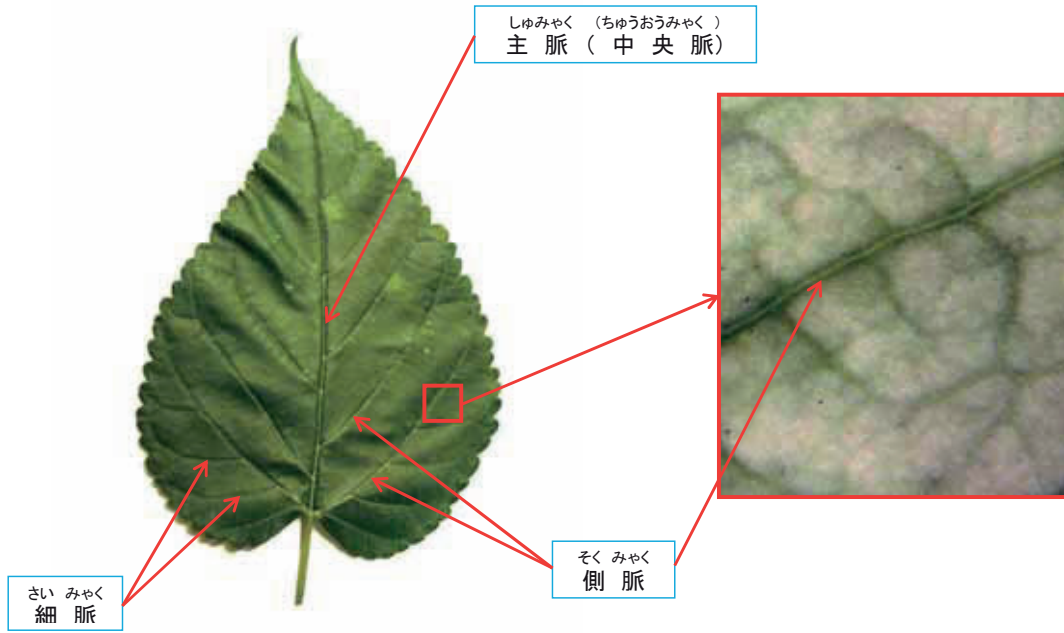
・新村出編 広辞苑第五版 岩波新書

用語の解説

- **木本** 木質の茎(木幹)を有する植物です。
- **草本** 植物の地上部が柔軟で木質をなさないものの総称。俗に草と称するものです。
- **シダ植物** 苔植物と裸子植物との中間に位置し、胞子で繁殖する植物です。
- **一年生(草本)** 春に発芽し夏から秋に開花結実してその年のうちに枯死する草のことです。
- **多年生(草本)** 2年以上にわたって生育し、毎年開花結実する草のことです。
- **低木** 低い木。樹木のうち、幹は細く根際から束生し主幹と側枝との区別が不明瞭なものです。
(オキナワシャリンバイ、サキシマツツジなど)
- **高木** 高い木。主幹と側枝との区別がおおむね明らかなものです。
(サキシマスオウノキ、ガジュマル、サガリバナ、フクギ、テルハボクなど)
- **小高木** 低木や高木になるものをいいます。
(フトモモ、オオハマボウ、ギョボク、ハマイヌビワ、アカメイヌビワなど)
- **常緑樹** マツのように、葉が形成されてから1年以上落ちないで、年中緑葉が付いている樹木の総称です。常緑樹の葉も形成されてから2-3年で枯れて落ち、新葉と入れかわります。
- **落葉樹** 1年以内で葉が枯れて落葉し休眠状態に入る時期のある樹木の総称です。
- **広葉樹** ツバキなど扁平な葉をもった樹木のことです。
- **針葉樹** マツなど細く尖った葉をもった樹木のことです。
- **雌雄異株** 雌花をつける株と雄花をつける株が異なることです。
- **雌雄同株** 雌花と雄花が同じ1本の株につくことです。
- **葉身** 葉柄の先につく広い部分をいいます。
- **葉軸** 葉の軸のこと、葉柄の延長した部分をいいます。
- **葉の縁** 葉の側面のこと。滑らかな縁や、ノコギリの歯のようにギザギザしたものがあります。

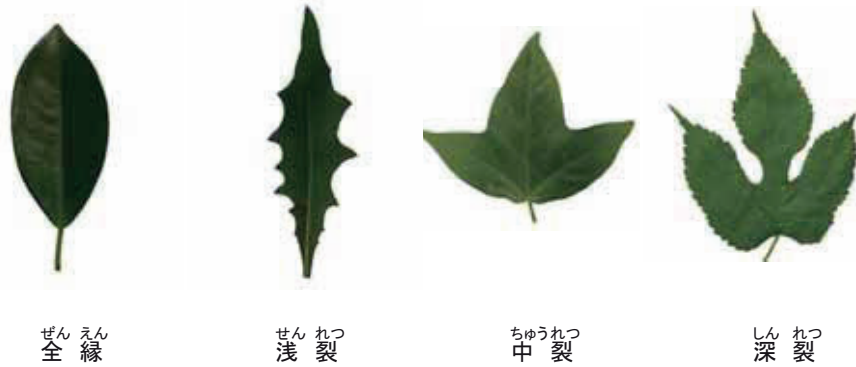


○ 葉の構造



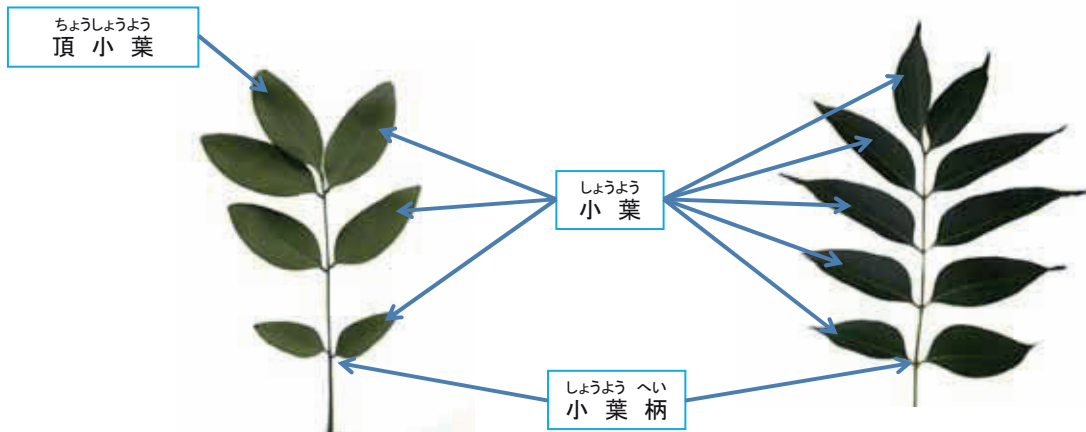
○ 単葉

葉身が1枚だけの葉のことをいいます。
全縁から深裂するものまでいろいろあります。



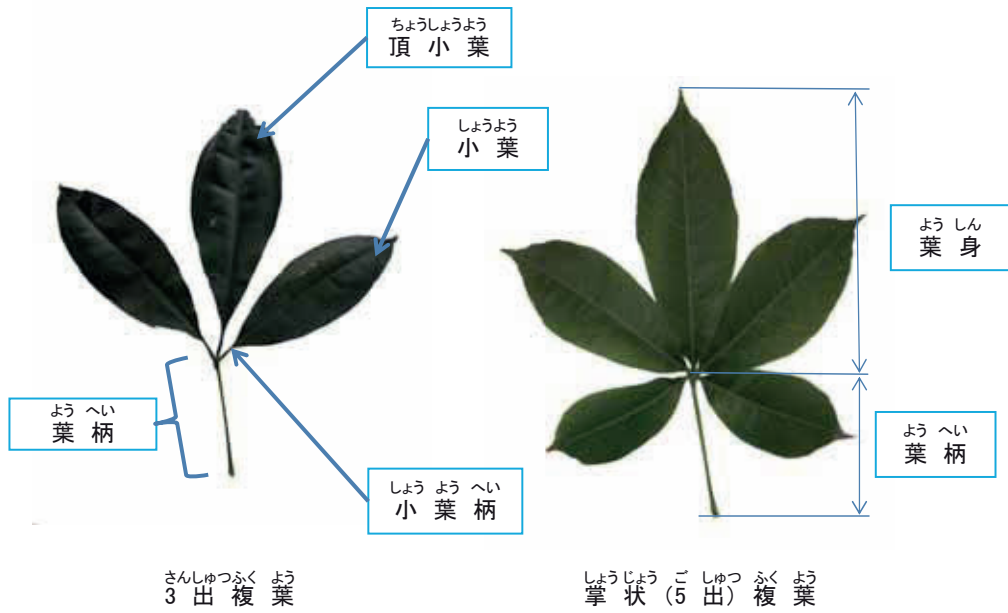
○ 複葉

葉身が2枚以上の葉のことをいいます。
複葉についている葉身の1枚1枚を小葉といい、その柄を小葉柄といいます。



きすううじょうふう
奇数羽状複葉
しょうようきすうまい
小葉が奇数枚ついています。

ぐすううじょうふう
偶数羽状複葉
しょうようぐすうまい
小葉が偶数枚ついています。



○ たくよう 托葉

ようしん ふぞく には 付属してできた葉のようなもので、ようへい うえ また ようへい きぶふきん め うえ 葉柄の上、又は葉柄の基部付近の芽の上にあります。



そくせい たくよう ようへい りようがわ ちい は 側生托葉：葉柄の両側にある小さな葉



ようかん たくよう たいせい ようへい あいだ ちい は 葉間托葉：対生する葉柄の間にある小さな葉

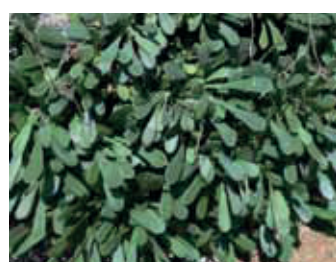
○ はの かくしつ 革質

は かた かわ あつ 葉が堅く、革のように厚いこと。(ヒメズリハ、ツゲモチなど)

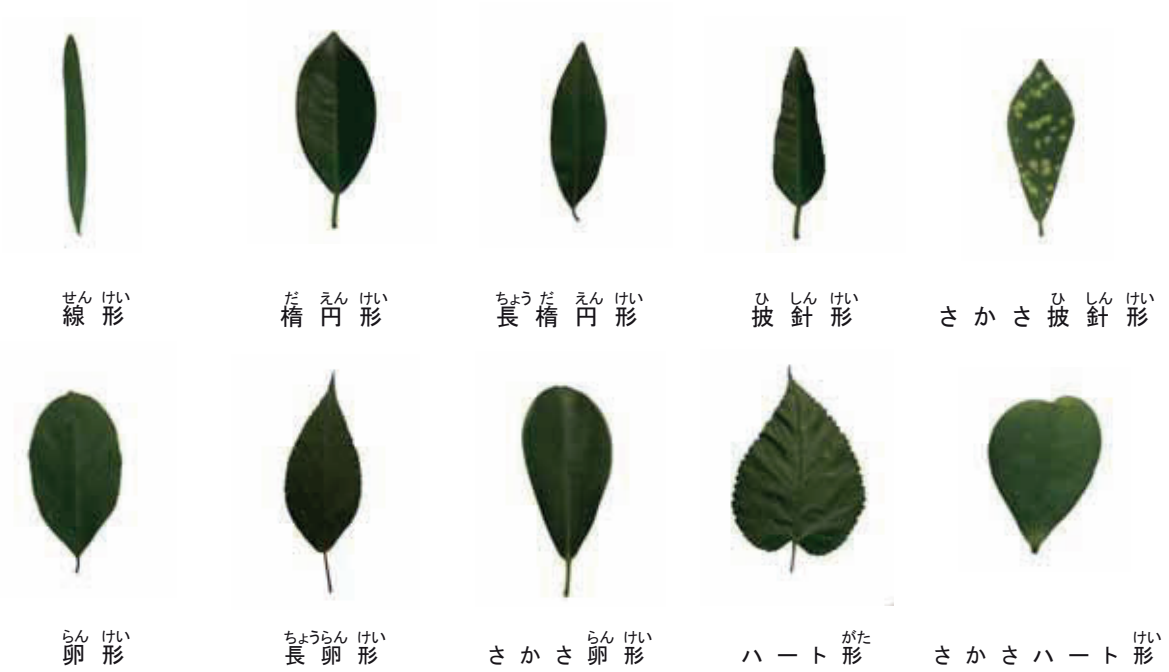


○ はの にくしつ 肉質

は あつ 葉に厚みがあること。(サクラン、イソマツなど)



○ は葉のいろいろな形 かたち



○ は葉の縁の形 かたち



○ は葉の先の形 かたち



○ は葉の基部の形 かたち



○ は 葉 の つ き 方 かた

たいせい
対生



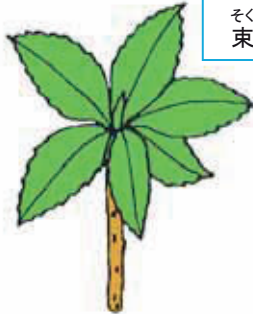
1箇所の節から2枚の葉が向かい合っ
ていることです。

こせい
互生



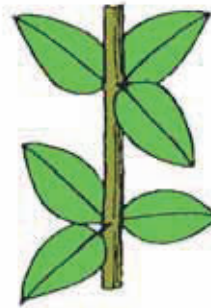
葉が茎の各節から1枚ずつで
いることです。

そくせい
束生



葉が多数接近して生え、束のよ
うになっています。

りんせい
輪生



茎の1つの節に3以上の葉が輪
のようにつくことです。

○ えきせい
腋生

葉のつけね(葉腋)に花や芽が着
生することです。

○ ようえき
葉腋

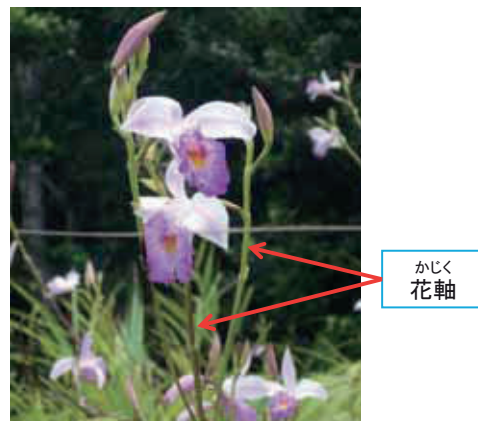
葉の基部で、多くの側芽はここ
に生じ、分枝が行われます。

○ えきか
腋花

葉のつけね(葉腋)につく花の
ことです。

○ かじく
花軸

花がつく枝、または茎のこと
です(花柄とはちがいます)。



○ 実の種類

球果

円錐果ともいいます。裸子植物のスギやマツの果実のように雌花の球花が発達して、厚く木質になった多数のりん片が中の軸のまわりに密についていて、全体が球形か円錐形になっています。(リュウキュウマツなど)

堅果

果皮が乾燥して堅く、裂開しない。また種子から離れやすくなっています。(オキナワウラジロガシ、スダジイなど)



リュウキュウマツ



オキナワウラジロガシ



スダジイ

核果 (石果)

果実の外果皮が薄く、多肉の中果皮があり、その中に石のように堅い核があります。種子は核の中にあります。(テリハボク、モモタマナなど)

液果 (漿果)

中果皮、内果皮が水分の多い肉質でやわらかく、熟しても裂けません。また、多少堅い種子があります。(オールドガキ、フクギなど)



テリハボク



モモタマナ



オールドガキ



フクギ

そう果

種子のように見える果実で果皮は薄い膜質で熟すると乾燥しますが裂けません。(サカキカズラ、リュウキュウトベラなど)

集合果 (多花果、複果)

いくつか集まった花の子房が熟して全体で1つの果実のように見えるものです。(アダン、ヤエヤマアオキなど)



サカキカズラ



リュウキュウトベラ



アダン



ヤエヤマアオキ

○ 花序

種子植物類の花の集合や配列の仕方のことです。

総状花序

柄のある花が多数、長い花軸に離れてついています。花は下の方から上に咲きます。

(ナンテンカズラ、ハスノミカズラ、テリハボク、アカメガシワなど)

円錐花序

花序の枝が何回も枝分かれし、花序の中で軸上の位置が低いほど枝の張りが大きく、全体に円錐形になる花序のことです。(ハマゴウ、リュウキュウコマツナギ、オオバギ、アワダンなど)



ヒイラギズイナ

そうじょうかじよ
総状花序



トウヅルモドキ

えんすいかじよ
円錐花序

尾状花序

花軸に雄花だけか、雌花だけがついて垂れ下がる花序です。穂状花序の形が変わったもので花は1つ1つばらばらに落ちず、花序のもとから落ちてしまいます。(シマグワ、オキナワウラジロガシなど)

穂状花序

長い花軸に柄のない花が互いに離れてつらなり、下の方の花から上の方の花へと咲いてつきます。(シマシラキ、モモタマナ、スダジイ、ヤマモモなど)



スダジイ

すいじょうかじよ
穂状花序



モモタマナ

すいじょうかじよ
穂状花序

散形花序

花軸の先端から何本もの枝(柄)がでて、その先に花が1つずつついています。(モクダチバナ、シシアクチ、カクレミノ、サクラランなど)

頭状花序

花軸が短くなり横に広がったり丸くなったり、円盤や球形のような形になります。その上に柄のない花がついています。(ギンネム、ソウシジュなど)



ボタンボウフウ

さんけいかじよ
散形花序



ギンネム

とうじょうかじよ
頭状花序

けん 索引

【あ】

アオイボクロ P	121	イワザンショウ P	60
アオガンピ P	14	インドキワタ P	131
アオノクマタケラン P	108	インドソケイ P	129
アオバノキ P	90	ウナズキヒメフヨウ P	129
アカギ P	44	ウミショウブ P	122
アカキナノキ P	129	ウラジロアカメガシワ P	28
アカギモドキ P	44	ウラジロエノキ P	51
アカテツ P	26	オオギバショウ P	130
アカハダノキ P	55	オオゴチヨウ P	130
アカバナヒルギ P	1	オオシイバモチ P	85
アカミズキ P	58	オオシマコバンノキ P	25
アカミズキ P	58	オオシラタマホシクサ P	115
アカメイヌビワ P	49	オオニンジンボク P	53
アカメガシワ P	29	オオバアコウ P	45
アコウ P	45	オオバイヌビワ P	48
アサヒカズラ P	129	オオバエゴノキ P	54
アセローラ P	129	オオバギ P	28
アダン P	23	オオバナアリアケカズラ P	130
アデク P	75	オオバナサルスベリ P	130
アマクサシダ P	127	オオバナソシンカ P	138
アミガサギリ P	30	オオハマボウ P	21
アメリカハマグルマ P	103	オオバライチゴ P	43
アメリカンチューリップ P	130	オオバルリミノキ P	88
アラマンダ P	130	オオヘツカシダ P	126
アリモリソウ P	114	オオベニゴウガン P	130
アレカヤシ P	129	オオムラサキシキブ P	62
アワダン P	74	オキナワウラジロガシ P	67
イイギリ P	30	オキナワガンピ P	14
イエロークイーン P	133	オキナワキョウチクトウ P	19
イジュ P	70	オキナワクジャク P	127
イスノキ P	84	オキナワグミ P	35
イソフジ P	24	オキナワサザンカ P	71
イソマツ P	104	オキナワサルトリイバラ P	120
イタジイ P	68	オキナワジイ P	68
イナバラ P	112	オキナワシャリンバイ P	34
イヌグス P	77	オキナワジンコウ P	15
イヌビワ P	47	オキナワスズメウリ P	117
イヌマキ P	98	オキナワソヨゴ P	86
イボタクサギ P	16	オキナワテイカカズラ P	94
イリオモテアザミ P	101	オキナワテイショウソウ P	113
イリオモテクマタケラン P	108	オキナワハグマ P	113
イリオモテシャミセンヅル P	128	オキナワマツ P	95
イリオモテソウ P	114	オニヘゴ P	124
イリオモテヒメラン P	112	オヒルギ P	1
イリオモテラン P	111	オールドガキ P	54

【か】

カエンボク	P 130
カガツガユ	P 33
カキバカンコノキ	P 57
カクチョウラン	P 111
カクレミノ	P 83
カゴメラン	P 112
カジノキ	P 46
ガシャンギ	P 16
ガジュマル	P 11
カッコウアザミ	P 107
カネカダン	P 23
カラスキバサンキライ	P 120
カンコノキ	P 56
カンヒザクラ	P 131
ギーマ	P 75
キキョウラン	P 117
キダチキンバイ	P 104
キダチハマグルマ	P 103
キバタイワンレンギョウ	P 131
キバナキョウチクトウ	P 131
キバナセベティア	P 131
キャンドル・スティック	P 136
キョウチクトウ	P 131
ギョクシンカ	P 63
ギョボク	P 53
ギランイヌビワ	P 49
キールンカンコノキ	P 57
キワタノキ	P 131
キンギンソウ	P 112
キングイヌビワ	P 50
ギンゴウカン	P 39
キンシヨクダモ	P 77
キンチョウ	P 121
キントラノオ	P 131
ギンネム	P 39
グアバ	P 136
クササンダンカ	P 132
クサトベラ	P 18
クサマキ	P 98
クサミズキ	P 40
クダモトケイソウ	P 107
クチナシ	P 82
クマタケラン	P 108
グミモドキ	P 35
クロガネモチ	P 85
クロトチュウ	P 76
クロトン	P 132

クロヘゴ	P 124
クロミノオキナワスズメウリ	P 117
クロヨナ	P 20
クワズイモ	P 117
クワノハエノキ	P 51
ゲンバイウメズル	P 32
ゲンバイヒルガオ	P 102
ケカラスウリ	P 118
ケクララ	P 24
ゲッキツ	P 132
ゲットウ	P 108
ケナガエサカキ	P 72
コウシュンカズラ	P 92
コウトウイヌビワ	P 49
コウトウエゴノキ	P 54
コウトウシュウカイドウ	P 115
コウトウシラン	P 110
コウトウヤマヒハツ	P 69
コウモリシダ	P 126
コガネタケヤシ	P 129
コクテンギ	P 76
ゴクラクチョウカ	P 133
コシダ	P 127
コニシイヌビワ	P 49
コバテイシ	P 36
コバナアリアケカズラ	P 132
コバナアリアケカズラ	P 132
コバナセンナ	P 132
ゴバンノアシ	P 10
コバンモチ	P 81
コミノクロツグ	P 97
コリンクチナシ	P 82

【さ】

サカキ	P 72
サカキカズラ	P 93
サガリバナ	P 9
サキシマスオウノキ	P 8
サキシマツツジ	P 64
サキシマハマボウ	P 21
サキシマフヨウ	P 10
サクララン	P 119
ササバサンキライ	P 120
サザンカ	P 71
サツマサンキライ	P 120
サンダンカ	P 133
サンダンカ	P 133
シイノキカズラ	P 12

シシアクチ	P 79
シチヘンゲ	P 138
シバニツケイ	P 76
シマイズセンリョウ	P 59
シマウオクサギ	P 27
シマウリノキ	P 40
シマクロキ	P 38
シマグワ	P 46
シマサルナシ	P 93
シマシラキ	P 15
シマトネリコ	P 52
シマヤマヒハツ	P 69
ショウキズイセン	P 105
ショウベンノキ	P 74
ショウロウクサギ	P 27
ショウロクサギ	P 27
シラタマカズラ	P 94
シロバナヒルギ	P 3
シロミミズ	P 58
シロヨナ	P 20
スジヒツツバ	P 126
スダジイ	P 68
ストレッチア	P 133
セイシカ	P 64
センダン	P 38
センリョウ	P 59
ソウシジュ	P 39
ソテツ	P 96
ソメモノイモ	P 119

【た】

ターネラ ウルミフォルニア	P 133
タイミンチク	P 99
タイワンアカシア	P 39
タイワンウオクサギ	P 27
タイワンエビネ	P 110
タイワンオガタマ	P 82
タイワンクス	P 105
タイワンコモチシダ	P 125
タイワンシオジ	P 52
タイワンヒメフヨウ	P 129
タイワンヤナギ	P 39
タイワンルリミノキ	P 89
タカサゴコバンノキ	P 25
タカサゴシラタマ	P 90
タカワラビ	P 125
タコノキ	P 133
タシロマメ	P 20

タシロルリミノキ	P 88
タチアワユキセンダングサ	P 106
タビビトノキ	P 130
タブノキ	P 77
タマザキゴウガン	P 55
チケイラン	P 111
チョウマメ	P 133
チリメンナガボソウ	P 106
ツゲモチ	P 86
ツルアダン	P 23
ツルラン	P 109
ツンベルギア・フォーゲリアナ	P 134
デイゴ	P 134
テッポウユリ	P 105
デリス	P 41
テリハイヌビワ	P 49
テリハクサトベラ	P 18
テリバザンショウ	P 60
テリハボク	P 22
トウヅルモドキ	P 42
トキワギョリュウ	P 95
トクサラン	P 109
ドクフジ	P 41
トサカメオトラン	P 109
トックリキワタ	P 134
トックリヤシ	P 134
トックリヤシモドキ	P 134

【な】

ナガバイナモリ	P 114
ナガバイヌツゲ	P 86
ナガバカニクサ	P 128
ナギ	P 98
ナナバケシダ	P 126
ナリヤラン	P 110
ナワシロイチゴ	P 43
ナンテンカズラ	P 13
ナンバンギセル	P 116
ナンヨウスギ	P 134
ニツパヤシ	P 7
ニトベカズラ	P 129
ニンドウバノヤドリギ	P 61
ヌノマオ	P 42
ヌマダイコン	P 116
ノアサガオ	P 102
ノゲイトウ	P 106
ノボタン	P 65
ノヤシ	P 96

【は】

バイケイラン	P 110
パイナップル	P 135
ハイビスカス	P 135
パキラ	P 135
ハクサンボク	P 91
ハシカンボク	P 66
ハスノハギリ	P 31
ハスノミカズラ	P 13
ハゼノキ	P 36
ハチジョウカグマ	P 125
ハテルマギリ	P 31
ハナガサノキ	P 92
ハナチョウジ	P 135
バナナ	P 136
ハネセンナ	P 136
パパイヤ	P 136
ハブカズラ	P 121
ハマアズキ	P 103
ハマイヌビワ	P 48
ハマウド	P 101
ハマエンジュ	P 24
ハマオモト	P 101
ハマゴウ	P 16
ハマザクロ	P 4
ハマササゲ	P 103
ハマセンダン	P 38
ハマセンナ	P 24
ハマナタマメ	P 103
ハマビワ	P 26
ハマボツス	P 104
ハナムラサキノキ	P 18
ハリツルマサキ	P 32
ハルランイヌビワ	P 49
バンジロウ	P 136
バンレイシ	P 136
ヒイラギズイナ	P 87
ヒカゲヘゴ	P 123
ヒガンザクラ	P 131
ヒメサザンカ	P 71
ヒメシャシャンポ	P 75
ヒメツバキ	P 70
ヒメトケイソウ	P 107
ヒメユズリハ	P 80
ヒリュウシダ	P 124
ヒルギダマシ	P 5
ヒルギモドキ	P 6
ヒレザンショウ	P 60

ビロウ	P 97
ヒロハツルグミ	P 35
ピンクテコマ	P 137
ブーゲンビレア	P 137
フウトウカズラ	P 119
フカノキ	P 83
フクギ	P 22
フクマンギ	P 32
フサナリツルナスビ	P 102
フシノハアワブキ	P 55
フジボグザ	P 41
フトボナガボソウ	P 106
フトモモ	P 19
ベンガルヤハズカズラ	P 137
ホウオウボク	P 137
ホウライカガミ	P 119
ホコバテイキンザクラ	P 137
ホソバイヌビワ	P 47
ホソバムクイヌビワ	P 50
ホソバリュウビンタイ	P 124
ボタンボウフウ	P 101
ボチョウジ	P 78
ホテイアオイ	P 137
ホルトノキ	P 81
ホンコンカポック	P 138

【ま】

マツバラ	P 128
マツムラソウ	P 115
マニラヤシ	P 138
マヤプシキ	P 4
マルバチシャノキ	P 37
マルバルリミノキ	P 89
マルヤマカンコノキ	P 56
マルヤマシュウカイドウ	P 115
マンゴウ	P 138
マンリョウ	P 78
ミズガンピ	P 14
ミズスギ	P 128
ミツバハマゴウ	P 17
ミフクラギ	P 19
ミミモチシダ	P 125
ミルスベリヒユ	P 104
ムクイヌビワ	P 50
ムラサキヒゲシバ	P 121
メヒルギ	P 2
モガシ	P 81
モクタチバナ	P 79

モクマオウ	P 95
モダマ	P 12
モッコクモドキ	P 34
モミジヒルガオ	P 102
モモイロノウゼン	P 137
モモタマナ	P 36
モリヘゴ	P 123
モンパノキ	P 18

【や】

ヤエヤマアオキ	P 33
ヤエヤマオオタニワタリ	P 124
ヤエヤマガシ	P 67
ヤエヤマコクタン	P 73
ヤエヤマコンテリギ	P 62
ヤエヤマコンロンカ	P 63
ヤエヤマシキミ	P 91
ヤエヤマセンニンソウ	P 118
ヤエヤマネコノチチ	P 61
ヤエヤマネムノキ	P 15
ヤエヤマノボタン	P 66
ヤエヤマハマゴウ	P 17
ヤエヤマヒルギ	P 3
ヤエヤマヤシ	P 96
ヤエヤマヤマボウシ	P 65
ヤブツバキ	P 70
ヤブレガサウラボシ	P 125
ヤマグルマ	P 87
ヤマグワ	P 46
ヤマデキ	P 74
ヤマヒハツ	P 69
ヤマビワソウ	P 116
ヤマモモ	P 80
ヤラボ	P 22
ヤンバルアカメガシワ	P 29
ヤンバルアワブキ	P 55
ヤンバルセンニンソウ	P 118
ヤンバルタマシダ	P 127
ヤンバルミヨウガ	P 113
ユーナ	P 21
ヨウテイボク	P 138

【ら】

ランタナ	P 138
リュウキュウアオキ	P 78
リュウキュウアカマツ	P 95
リュウキュウアセビ	P 138
リュウキュウアワブキ	P 55

リュウキュウイナモリ	P 114
リュウキュウエノキ	P 51
リュウキュウガキ	P 73
リュウキュウカラスウリ	P 118
リュウキュウコウガイ	P 2
リュウキュウコクタン	P 73
リュウキュウコマツナギ	P 25
リュウキュウサギソウ	P 113
リュウキュウセッコク	P 111
リュウキュウチク	P 99
リュウキュウチシャノキ	P 37
リュウキュウツチトリモチ	P 116
リュウキュウツバキ	P 71
リュウキュウツルグミ	P 35
リュウキュウツワブキ	P 113
リュウキュウテイカカズラ	P 94
リュウキュウトベラ	P 34
リュウキュウトロアオイ	P 107
リュウキュウバライチゴ	P 43
リュウキュウマツ	P 95
リュウキュウマユミ	P 84
リュウキュウモクセイ	P 52
リュウキュウルリミノキ	P 88
リュクチク	P 99
リントウ	P 23
ルリハコベ	P 105
レンギョウエビネ	P 109

おわりに

当センターは西表島をフィールドとして自然再生活動、森林環境教育に取り組んでいるNPO団体、教育関係者等への支援活動を行っています。

フィールドである西表島の森林には、イリオモテヤマネコなど貴重な野生動物が生息していますが、植物も固有種が多く、聞き慣れない名前に満ちあふれています。また、これらの植物を特定するための専門書や図鑑は少なく、西表島で活動する上において植物の名称を判定することの難しさを味わってきました。このことから西表島に限定した「西表島の植物誌」を作成できないかと考えてきたところでした。そこに、遠山勝自然再生指導官（現沖縄森林管理署流域管理調整官）が平成19年4月に着任致しました。

本書は、遠山勝自然再生指導官が、平成19年4月から平成21年11月までの2年8ヶ月の間に、西表島において森林深く分け入って調査し、その都度カメラに納めてきた画像を細かく整理し、製本に向けて取り組んでいましたが、作成途中で異動となりました。そのため、遠山勝自然再生指導官の意思を濱田辰広自然再生指導官が引き継ぎ、今回、完成させることができました。

本書において、各植物の説明書きには、平凡社から発刊されています「日本の野生植物」等の説明文を引用させて頂いています。

最後に、本書の発刊までに多くの皆様方、特に、加島幹男大原首席森林事務所森林官にはご指導ご協力を戴きました。ここに厚くお礼申し上げます。

なお、本書は、西表島における森林環境教育の一助として作成していますので、本書を利用しての販売等の営利行為を行わないようにお願いします。

平成22年3月

九州森林管理局

西表森林環境保全ふれあいセンター所長

杉野 恵宣